



あけまして

おめでとーございませす

本年もよろしく

お願いいたします

中央執行委員長

大杉正美

中央執行副委員長

小笠原浩文

書記長

辻村和裕

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

吉永和文

中央執行委員

赤松重幸

中央執行委員

小山達礼

特別中央執行委員

内山進

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和四年 元旦



大杉執行委員長

2022 新年あいさつ

新年あけましておめでとうございます。日々の業務へのご精励と献身的な組合活動に対し、心より感謝を申し上げます。

未だ収束の見通しが立たないコロナ禍により、2021年度の事業計画値改定を繰り返す厳しい状況が続いており、1月も改定が固められ、最終的な数値は連結17億円、単体4億円と見込んでいます。このような厳しい状況下においても「JR貨物グループ長期ビジョン2030」は着実に進んでおり、労使が一体となってこの難局を克服し、JR貨物グループ、JR産業全体の安定的な回復への道筋をつけ、働く仲間の安心を取り戻すため、責任ある運動を進めていく決意であります。それでは、新年にあたり主に3点について提起しご挨拶とします。

1点目は、最優先課題である安全確立についてです。2017年12月に起きた千早操車場構内触車死亡労災において、組合員1名の尊い命が一瞬で奪われてしまい、あのような辛い事故は二度と起こさない決意で日々の業務に従事してきましたが、昨年8月にJR貨物グループにおいて尊い命を落とされ、死亡労災が発生いたしました。また、一歩間違えれば重大労災になり得る危険な労災も度々起きており、今一度、基本作業の徹底を図り、列車の遅れを気にすることより、安全を最優先に考えた行動をお願い致します。JR貨物を含むJR各社が経営危機にある今こそ、労働組合のチェック機能、提言機能を強化し、「ヒューマンエラー」は結果であり原因ではない、「との理念に基づき、職場からの安全確立に全力をあげることとします。

2点目に政策課題についてです。昨年12月10日税制改正大綱が発表されJR貨物関係では、「承継特例」「新車特例」が盛り込ま

れJR連合国会議員懇談会、JR連合の取り組みに心より感謝いたします。また、国土交通大臣要請も行い、政策実現に向けて着実に進んでいきますが、通常国会を見守らなければなりません。JR貨物は、幸いなことにコロナ禍でも期限延長が繰り返された雇用調整助成金を活用することなく業務に従事されていますが、他を見れば雇用調整助成金が命綱となつていきます。コロナ禍という未曾有な危機の今だからこそ、政策活動の重要性を感じていただければと思います。また、青函トンネル共用走行問題・災害に強い鉄道設備強化等、多くの政策課題がありますが、JR連合との共に課題解決に向け取り組んでいきます。

3点目は交通共済についてです。2023年7月に「こくみん共済」へ移行されることで、組合員の皆様には大きな実務が生じますが、我々の仲間である交通共済労組の皆さんが、こくみん共済移行時に不利益を被らないよう取り組んでいくため、

ご理解ご協力をお願い致します。

結びと致しまして、2022年春季生活闘争を通じ組合員が安心感を回復できるメッセージを伝えることが重要です。JR7単組とグループ92単組がワンチームで臨み、月例賃金アップにこだわり総合的な生活改善を進め、ベア獲得に向け強い意思で挑んでいきます。

最後に、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」では完全民営化が盛り込まれ、おり、そのためにはJR貨物が今以上に「クリーンな体質」にならなければなりません。山あり谷ありと大変険しい道筋ではありますが、労使が一体となり進めようではありませんか。

以上、新年にあたってのご挨拶といたします。本年もよろしくお願いいたします。



2022年1月～2月 行事予定

- 1月7日(金) JR連合第4回労働政策委員会
- 1月13日(木) JR連合拡大執行委員会
- 1月18日(火) JR連合産業政策委員会
- 1月20日(木) JR連合安全対策委員会
- 1月26日(水) JR連合男女平等参画委員会
- 1月31日(月) JR連合ビジョン推進委員会
- 2月1日(火) JR連合第34回中央委員会
- 2月4日(金) 拡大執行委員会
- 2月5日(土) 第35回中央委員会
- 第12回貨物連合定期大会



荻山JR連合会長

## 2022新年あいさつ

新年おめでとうございます。組合員の皆様の日々の業務へのご精励と献身的な組合活動に対し、心より感謝を申し上げます。

コロナ禍の長期化、深刻化により、JRグループは発足後最悪の経営危機に陥りました。ワクチン接種が進み、昨年10月以降、ようやくJRのご利用も回復傾向にあります。しかし、JR各社ともにコロナ前の水準には依然遠く、多額の借入金等の拡大もあり、本格復調までは長期戦を覚悟しなければなりません。さらに若年層、中堅層の離職が増加傾向にあり、危機感を高める必要があります。

こうした中、私たちは国鉄改革に並ぶ大きな転換期を迎えているといえます。5月18日にJR連合結成30周年を迎えます。本年はこの

重要な節目にあたり、難局を克服してJR産業の安定回復へ確かな見通しをつけ、働く仲間の安心を取り戻すために、責任ある運動を進める決意です。

それでは、新年にあたり、重要課題3点について提起しご挨拶とします。

まず、最優先課題である安全確立についてです。昨年1年間、お客様に関わる重大事故はなかったものの、協力会社の社員7人が尊い命を落とされるなど、死亡労災、重大労災が後を絶ちません。JR各社が経営危機にある今こそ、労働組合のチェック機能、提言機能を強化し、「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との理念に基づき、職場からの安全確立に全力をあげることとします。

次にコロナ禍への対策についてです。昨年はJR産業と働く仲間の雇用と生活を守るために、サービスマン、航空連合と連携して大臣をはじめ関係各所へ要請活動を繰り返し実施するなど、積極的に取り組み成果を収め

てきました。本年も雇用対策をはじめとする支援策や、安心利用の促進、息長い需要の底支えなどを国に求めています。また、離職防止のためにも、2022春季生活闘争を通じ組合員が安心感を回復できるメッセージを伝えることが重要です。JR7単組とグループ92単組がワンチームで臨み、基本給を重視した賃上げとともに、安心して働き続けられる魅力あるJR産業を築くべく、泊勤務、夜間作業など若手に敬遠される働き方の見直しにも焦点を当て、総合的な生活改善を進めることとします。

最後に、結成30周年を踏まえた中長期的な政策発信等についてです。JR連合は昨年6月に「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方」の提言をいたしました。ポストコロナ時代にJR産業が持続的に成長して社会を支える役割を果たし続けるためには、大胆な変革が求められると考えます。秋に記念行事を開催し、JRの責任産別として未来志向の政策提言を発信する予定です。そして、JR産業に働くすべ

ての仲間のJR連合への総結集、さらにJRグループの結束の強化、労使の信頼関係の充実を訴えます。

職場不安が広がる危機にこそ、労働組合の役割が重要となります。組合員に寄り添いコミュニケーションを強化しなければなりません。組合員の皆様のJR連合の活動への積極的な参加と協力をお願いし、新年にあたってご挨拶いたします。



交運共済 ニュース

## JR社員のみならず、JRグループ会社の社員、退職後も利用できる、開かれた共済。

病気、交通事故、火災、地震・・・など、偶然の事故に備えて仲間(組合員)が掛金を出し合い、いざという時に助け合うのが共済です。集められた掛金は、共済金等の支払と事業運営に充てられ、剰余となる部分は、割戻金として組合員の皆さまに還元しています。



みんなで暮らしをガード

交運共済 (JR職域生協)  
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合

